

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 22 年度

事業所番号	2771400914		
法人名	医療法人 神明会		
事業所名	グループホームラ・アケソニア		
所在地	箕面市白鳥1丁目19-3		
自己評価作成日	平成 22年 6月 14日	評価結果市町村受理日	平成 22年 9月 24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2771400914&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 7月 3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月に2回、音楽療法の先生に来ていただき、認知症の進行をおさえることをしている。介護老人保健施設と併設していることで24時間看護師がいる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人神明会が運営、介護老人保健施設と併設されており、3階建ての建物の1階に1ユニットのグループホームがあります。田園風景にとけこんだ立地で、庭の芝生や季節感ある野菜作りと、家庭的な雰囲気です。ホームでは月2回音楽療法として先生を招き、利用者一人ひとりの名前を呼び、レベルに合わせてリズムを付けてもらっています。利用者の好きな歌を歌ってもらい、記憶力の低下を防ぎ、声が伸びるように努め、また認知症の進行防止に向けて取り組んでいます。家族には毎月の報告や近況を「なごやか便り」にて知らせています。また、グループホーム新聞も発行し、写真を添えて発信しています。名称には「心からのおもてなし」という意味があり、「看護、介護させていただく」ことをモットーに、管理者、職員は努めています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	愛 共感 奉仕の理念を共有し仕事に取り組んでいる。	法人の理念として「愛(「愛(人間愛)」を原点に、行動します。)、共感(「その人」の気持ちになって、行動します。)、奉仕(「奉仕」の精神をもって、行動します。)」を、玄関や詰所に掲げています。また、グループホームとして毎年職員間で話し合い、「笑顔を絶やさない」を1年間の目標と決めています。管理者、職員は共有のものとして実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、催しには参加している。近隣の小学校の音楽会に行ったり、運動会に行ったりしている。	ホームは自治会に加入し、回覧が回ってくる関係作りができています。自治会長や民生委員の方に、自治会のお花見に招待されて毎年参加し、おにぎりやお茶をいただいたり、歌や手遊びを楽しんだりしています。近隣のスーパーへも食料の買い出しに出かけ、挨拶を交わしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域に向けた認知症に対する理解や支援の場は持っていない。これからの課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に1度開催し家族や市役所の方、自治会の方、民生委員の方の意見を聴き、取り入れサービスに活かしている。</p>	<p>運営推進会議は2か月に1回、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、市職員、家族、職員の参加のもと、開催しています。グループホームからは行事報告、利用者の健康状態や日常生活の報告をしています。民生委員より、ボランティアの紹介を受けて、さまざまなクラブ活動にも来訪してもらっています。会議内では、市職員や自治会の情報交換の場にもなっています。また、地域包括支援センター職員の提案で、近隣のグループホームのクリスマス会に利用者と参加し、楽しい交流が持てました。</p>	<p>今後は、運営推進会議の規程、規約を作成することが求められます。</p>
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市町村というか民生委員の方と催し物の事について聞きしたり、参加の有無について連絡することがある。</p>	<p>市の担当者とは、相談しやすい関係作りを構築しています。ヒヤリハットの事故報告や外部評価結果も報告しています。市職員の提案で、市内のグループホーム6～7カ所合同で、3か月に1回交流会を開催し、有意義な時間を得ています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>事業所において身体拘束ゼロを目指してとりにくんでいる。身体拘束は、していない。</p>	<p>身体拘束ゼロを目指して取り組んでいます。プライバシー保護についても、入居時に利用者家族に署名捺印を得ています。ホームの入り口は2ヵ所あり、スライド式のドアで利用者でも自由に開閉できます。出ると併設施設のロビーになっています。利用者が外出したいときは、職員も一緒に同行しています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会を持ち虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修や勉強会に出席し、学ぶことがある程度で話し合いは持っていない。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、説明し納得してもらっている。改定の際は、不安や疑問などがあれば、いつでも説明して対応している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において家族の意見や要望を聴き、要望を聴き入れこたえている。また意見箱を置きいろんな意見を聞くため設置している。	玄関に手作りの意見箱を設置していません。利用者家族が要望や意見を出す機会があり、管理者が対応していません。運営推進会議には家族の参加も得ており、月間行事を見て準備に協力してもらい、敬老会には外出に出かけ、家族も参加して食事会をしました。また、意見としてホームの日常生活の情報を知りたいとのことで、担当職員がコメントを書いた「なごやか便り」の発信を始めました。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度定例会を開き職員の意見や提案を聞くように心がけ、反映している。	1カ月に1回職員会議を開催し、職員も自分の考えや意見を自由に述べることができます。また、業務改善について話し合い、行事の内容や行き先の検討をしています。利用者の連絡ノートや職員連絡ノートを分けて作成し、毎月の細かなケアについても話し合っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	グループホーム運営会を上司との話し合いをもっているが、個人面談等はなされていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では月1回勉強会委員により研修会を行っている。必要となれば外部の研修にも行き、事業所内で学んで来たことを発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所の部屋を提供してもらい3ヶ月に1度グループホーム懇親会をひらいて、いろんな意見を交換している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っている事や不安などを傾聴しそれを取り除くように本人や家族と話し合いを持ち努力する。安心して暮らせるように心がける。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に家族に利用者の状況をお話し家族様の要望に答えられるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がなにを必要としていることをみきわめ、それに沿ったサービスを話し合いを行い、提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出行事やお誕生日会、催しなどには来て頂いている。本人が寂しい時などにも来所していただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くに住んでいた方は友人が訪ねて来られたりする。	入居前にホームの近隣に住んでいた方は、友人や自治会の方が訪ねてくることがあります。神社に関係する方が、氏子である利用者を見舞い、懐かしむことがあります。また、親戚の子どもや孫の訪問もあり、利用者は喜ばれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う者同士、話がしやすいように席を組んでいる。気まづくなった時には、席がえを行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方で違う施設に移られた方のお見舞いに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを会話の中で読み取りこれでいいのかといつも自分に問い掛けている。	センター方式を使用し、利用者一人ひとりの似顔絵を書いて身体の特徴も記載しています。また「私のできること、できないこと」や好み等を記載したノートを作成しています。そのアセスメント様式を活用し、本人の言葉で、職員に伝わりやすく、具体的に意向を把握するように努めています。毎日洗濯物を干して下さる方、たたんで下さる方、野菜作りのお世話や育て方を教えて下さる方がいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族より入所前の生活歴や馴染みの暮らしを聴き、その人、その人に合った暮らしを心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルのチェックを行い、食事や水分量、排泄の管理などを行い、レクレーションの充実を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族、担当者、スタッフ全員で、アセスメント、カンファレンスを行い、ケアプランを立てている。モニタリングは、月に1度から3か月に1度行っている。</p>	<p>3か月毎にモニタリングを行い、会議を開催しています。本人や家族の意向、状態変化やサービス内容の変更の有無などを検討し、6か月ごとに介護計画を作成します。介護計画は、具体的でわかりやすいことを重視して作成し、本人・家族等の署名捺印を得るとともに、職員間で回覧し共有しています。また、日々のケア記録に転記して、ケアの実践に活かすよう取り組んでいます。利用者の中に、トイレでの立位の無理な方があり、職員間で検討を行い、計画に取り入れ訓練しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>気づきノート、連絡ノートを活用し、毎日カルテを記入し、その日の様子がわかるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>サービスの不具合が出てきた時には本人家族と話し合いをもちよりよいサービスを提供するようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会の主催で扇の会がありお花見や親睦会などに出席楽しまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度かかりつけの医師に往診に来て貰っている。他の病院にかかっている人もいる。	週に1回、医師の往診があります。ホーム側からはドクター宛に報告書を作成し、往診の際は利用者の状態と薬、湿布有無等も把握して、その都度細かく報告しています。また、週に1回歯科医の往診があり、義歯の調整、口腔ケアの指導を受けています。併設施設から看護師のサポートがあります。施設母体のクリニック等で受診する際は、必ず職員が付き添います。以前からかかりつけの医療機関を受診する方もおられ、通院は家族が同行しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している介護老人施設に看護師が常備しており、対応もして貰い、週に1度看護師が来所し情報提供をし適切な医療が受けれるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	施設での情報を提供し定期的におみまいうかがい、退院に向けての相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時において家族との話し合いを十分に説明を行い共有の方針を持ち支援に取り組んでいる。	入居時に、ホーム側より急変時の対応について説明を行い、家族に同意を得ています。ホームとしては、重度化や看取りに対して可能な限り対応していく方針ですが、医療ニーズが大きく入院を希望した場合は尊重します。今後は医療機関との連携、家族等との話し合いを検討しています。重度化された利用者については、家族が毎夕食介助に訪問されたり、泊まりこまれたり、ホームでも食欲のない時は高カロリーのアイスで対応したりと、できる範囲の支援を行った事例があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設している老健といっしょに勉強会を開催し、急変時や事故発生時の対応方法を勉強している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については、年に2回防災訓練を行い、消防署の支持を受けて、対応している。	災害時マニュアルを作成しており、年2回消防訓練を行い、うち1回は消防署の指導の下で訓練を行っています。スプリンクラーの設置も整っています。今後について、地域とホームとの相互協力を話し合っています。災害時の備蓄については、併設の老人保健施設に用意されています。	今後は、グループホーム内にも災害対策として少なくとも1日分の食料や水を備蓄することが期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の言葉を引き出せるように言葉掛けを心がけ人格、プライバシーを損ねないような会話をしている。	利用者を年長者として尊重し、言葉遣いについては、馴れ合いになったり、子どもに話しかけるような言い方になったりしないよう、注意事項をさりげなく掲示するなどして努力しています。個人情報保護法に関しては、新入職員に対して説明し、理解を求め、守秘義務を徹底するようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望をききだせるような質問をしたり、働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先とならないようスタッフ間で話し合い特に朝の場合は、見守り不足にならないようにそうじの方法を見直す。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は、自分の好みで選んで貰っている。男性には髭剃りを自分でしてもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に1度昼食作りをおこなっている。皆で作る楽しみや食べる楽しみを味わって貰っている。	3食共、併設の厨房より調理された食品が届き、ホームで一人ひとりにあつた量に調整して、盛り付けをして食べています。ごはんはホームで炊いています。週1回の昼食はホームで利用者の好みを聞いて調理し、利用者と共に作る楽しみを味わっています。おやつは利用者の希望を聞き、「ぜんざい」や「ホットケーキ」を焼くときもあります。時には、外食をして楽しむ時もあります。職員は利用者とは話を楽しみながら一緒に食事を摂り、さりげなく支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、チェックを行い好みの食べ物の提供や水分量の少ないひとには工夫して取って貰っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間をみてトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を作成し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しやすいように工夫しています。尿意のある方についてはその都度支援し、利用者の行動を確認しながらさりげなく自室のトイレに誘導しています。便秘にならないよう、食べ物、水分、薬とそれぞれの方に合った方法で支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日おやつに牛乳を飲んでもらったり水分を取って貰いフロアを歩いて貰ったりしている。最終てきには、便秘薬を処方して貰っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているがその時の体調や気分に応じて、違う曜日に変えるなどして柔軟に対応している。その曜日の方以外でも希望者がいれば、+1人ではあるが、入浴してもらっている。	利用者の希望に沿って週3回以上の入浴を支援しています。あらかじめ入浴する曜日を決めていますが、入りたい希望があれば毎日でも入浴してもらっています。自分で洗えるところはできる限り洗ってもらい、できないことを見極めて職員が支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全て個室となっているため休みたい時には、休めるようになっている。シーツかえは、週1回行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬表をつくっている。処方された薬の効力や副作用について理解し医師の往診時報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業や散歩、買い物など支援し、音楽療法、生け花やドッグセラピーなど楽しみを持ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に行ったり、外出行事で外食を家族といっしょにいたりしている。自治会の行事にも参加している。	ホームの中庭は広く、芝生が敷き詰められており、天気良ければ日光浴しています。買い物に出かけたり、家族と墓参りや法事に出かけたりしています。行事として初詣や花見、外食、公園の日本庭園に出かけることもありますが、その際には家族も参加しています。家族で一泊旅行に出かけた方もいます。しかし、日常的には外出することが少ない状況です。	外出を好まない利用者についても、およそ週に1回程度は外出の機会を作られることが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいは、事業所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話での支援しているが、手紙を書ける人は、いない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔を保ち空調管理を行っている。リビングは、南側にあり日当たりも良く、庭や田畑が見える。	ホーム玄関、廊下、リビングは広々と明るくゆったりとした雰囲気です。リビングの前庭は広々とした芝生が敷き詰められ、畑にはスイカやトマト、トウモロコシが実っていて、季節を感じることができます。キッチン是对面式となっていて、利用者の見守りができる配置となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、大きいテーブルを置きまわりに個々の席があり、通路にはソファを置きくつろげるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染んでいるダンスやテレビをおき、花を飾ったり、ぬいぐるみをおいて落ち着けるようになっている。	各居室には洗面所、トイレ、クローゼット、ベッドが整っています。居室からは非常時にベランダへ出られるように配慮されています。自宅から持参された家族の写真やテレビ、ダンス、絵画など、それぞれ自分の居室としてくつろげるように工夫しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	個別にトイレや洗面所があり、プライバシーを配慮している。		